

桜ヶ丘ハイツ地区懇談会での主な意見と回答

日 時 平成28年10月1日(土) 午前10時~午前11時30分

場 所 桜ヶ丘公民館

出席者 30人

市長による講演「住みごち一番・可児 かに暮らし情報発信元年」の後、質疑応答が行われました。

【質問】空き家・空き地の問題について、桜ヶ丘ハイツのような郊外型団地では空き家を賃貸で活用するような方策を考えられないでしょうか。また、特に若い世代の定住化促進のための先行投資として、家賃補助の制度を始めることはできないでしょうか。

【回答】今年度、市内全体の空き家調査を実施しており、その結果も踏まえて賃貸による活用の有効性などを検討します。また、可児市では人口が増加傾向にあることや、他の自治体において家賃補助があることを理由に転入してきた人が、自治会に加入しなかったり地域活動に参加しなかったりするなどの問題が生じていることなどから、本市では現時点で家賃補助に税金を投入することは難しいと考えています。まずは可児市や桜ヶ丘ハイツの暮らしやすさを多くの人に知っていただけるよう取り組んでいきます。

【質問】可児駅前拠点施設や可児駅自由通路の整備が進められていますが、駅前整備にどの程度の費用がかかっていますか。また、駅前整備の全体像はどのようになるのでしょうか。さらに、住み良さを考えれば、子育ての拠点施設は駅前ではなくそれぞれの地域に近いところにあった方が有効ではないでしょうか。

【回答】可児駅前については土地区画整理事業がすでに完了しており、拠点施設や自由通路の整備は駅前開発として進めているものではありません。自由通路はバリアフリー化などにより駅を利用しやすくするために整備するものです。また駅前拠点施設は、土地区画整理事業でできた公共用地をどのように活用するかということで2年ほどかけて検討し、子育てなどの拠点として整備することとしたものです。

【意見】可児市は人口が増加しているということですが、さらに若い世代を呼び込むためには子育て支援の充実が必要です。給食費や医療費の無料化、病児・病後保育サービスの充実などを進めることにより、可児市が若い世代にとってさらに住みやすいまちになると思います。

【回答】可児市でも若い世代が増えており、昨年には待機児童が発生したため、現在保育所の整備を進めているところです。他の自治体でも、さまざまな子育て支援サービスが行われていますが、それぞれの自治体の規模や特性によって、どのような施策が有効なのかは一様ではないと思います。可児市の置かれた条件の中でどのような施策が有効なのかを検討し、効果の高いものから取り組んでいきます。